

# 令和2年度射水市環境審議会の概要

## 1 開催日時

令和2年10月9日(金)

会議：午前10時00分から午前11時30分まで

## 2 場所

会議：射水市役所 4階 401会議室

## 3 出席者

渡辺 委員（富山県立大学工学部環境・社会基盤工学科教授）  
中村 委員（富山県立大学工学部環境・社会基盤工学科准教授）  
久郷 委員（富山地方気象台次長）  
中島 委員（富山県環境科学センター所長）  
竹内 委員（富山県高岡厚生センター射水支所長）  
町野 委員（富山県地球温暖化防止活動推進員）  
川西 委員（いみず地球温暖化防止活動推進員ネットワーク会員）  
澤田 委員（射水市企業団地連絡協議会長）  
寺林 委員（射水市地域振興会連合会常任理事）  
尾山 委員（新湊漁業協同組合代表理事組合長）  
松丘 委員（射水市環境衛生協議会長）  
佐伯 委員（公募委員）

## 4 欠席者

舟木 委員（射水市農業委員会会長）

## 5 配布資料

令和元年度射水市の環境概要

第2次射水市環境基本計画の進捗状況について

【参考資料】常時大気観測局適正配置計画書（抜粋）

【参考資料】射水市地域公共交通網形成計画（概要版）

【参考資料】「べいぐるん」実証運行チラシ

## 6 議題

- (1) 令和元年度射水市の環境概要について
- (2) 第2次射水市環境基本計画の進捗状況について
- (3) その他（環境全般について質疑応答及び意見交換）

## 7 質疑応答及び意見の概要

令和元年度環境概要について	
委員	水質調査について、水田の肥料により水質が汚染された時、農家に対して指導や罰則はあるのか。
事務局	指導や罰則はない。規制を設けているのは特定施設など。農業は規制対象ではない。
委員	大腸菌群数の超過について、7月調査時においては、採水前日の天候が雨天であったことが原因となっているが、採水日は天気を考慮しないのか。
事務局	採水日時は1、2か月前に決めている。あえて綺麗な時を意図的に測定するのではなく、記録は記録として残し、その時の値を検証することになっている。特に高い値については再測定を行うなどフォローもしている。
委員	6ページ(5)下条川水域等に係る水質調査結果の 平等橋 岩数橋付近の上流でBODが、環境基準を達成していない。平成28年の計画策定時から常に基準を達成できていない。基準を達成できていない原因として、硝化反応に伴う酸素量が増えた以外の特定の要因はあるか。また、常に基準を達成できていないのはどのくらい問題なのか。
事務局	測定地点は上流であり、水路がせまく水量が非常に少ないため様々な影響を受けやすい場所である。影響については、上流に原因があるということではない。自然由来のものでこのような結果になったと思われる。
委員	先般、実施した六渡寺海岸清掃キャンペーンではプラスチックでコーティングされた肥料の殻が多かった。これは直播に由来するものなのか。また、殻自体に害はあるのか。富山県環境科学センターでもプラスチックでコーティングされた肥料の殻が展示されており気になるところである。
事務局	市プラスチック資源循環推進事業でプラスチック廃棄物の現状を把握する基礎調査を行っている。その結果をもって、プラスチック資源循環戦略検討会で影響等を調べ、対策をとっていききたい。その委員には農協の関係者もいるので確認を取って対策をとっていききたい。
委員	富山県環境科学センターでは、マイクロプラスチックの調査を今年から行っている。県内の主な河川にネットを張って5mm以下の小さなプラスチックがどのようなものか調べている。まだ詳しい調査結果は出ていないが、

<p>委員</p> <p>事務局</p>	<p>春の調査では、農業由来のプラスチックがほとんどであるといったことが分かった。秋の調査では更にわかってくると思う。最近では、殻が自然に分解しやすい肥料が販売されており、販売業者でもそれを勧めていると聞いている。</p> <p>水質関係調査では、小矢部川類型は管轄外なのか。1917年にコレラが流行した際、伏木港から新湊に伝わって来たと聞いている。小矢部川類型からの海洋ごみの影響も大きいと思われる。</p> <p>小矢部川類型の河口は新湊であるが、流域は高岡市管轄となる。確かに、海洋ごみは小矢部川類型からのものも漂着している。管轄外だからといって対応していないわけではなく、庄川、小矢部川の連絡会で高岡市には小矢部川の海洋ごみの対策について依頼をしている。</p>
<p>第2次射水市環境基本計画の進捗状況</p>	
<p>委員</p> <p>事務局</p> <p>委員</p>	<p>2ページ(2)人と自然環境の共生で、森づくりの年間延べ参加人数が前年に比べて大きく減少しているが、その理由をつかんでいるか。また、2ページ(3)うるおいとやすらぎのある快適環境の創出での数値目標に「射水市環境とくらしフェア」会場で行ったアンケート調査の結果をそのままパーセンテージとしているが、射水市の人口が9万2千人程度に対してnは135となっておりnが少ない。基準値を決めるときにn数をどう定義しているのか。nが少なすぎるものを目標数値としていいのか。目標数値の設定方法はどうか。</p> <p>森づくり年間延べ参加人数とは、植樹の参加人数であり、悪天候の影響により植樹の活動回数が減ったことが原因である。</p> <p>「射水市環境とくらしフェア」会場に参加者にアンケートを依頼しているが、なかなか多くの人に回答を得ることができない。今後、割合数値算出の手法については検討が必要であると考えている。</p> <p>目標値のデータのとり方はもともと基本計画を策定する段階で議論があつてこのように決めたと思う。目標値も「射水市環境とくらしフェア」会場アンケート調査を行って数値を出し続けるということを含めてこの目標を選ばれたということなので、基本計画はこのまま行っていけばよいと思う。今後の追加的検討事項として、市は様々な社会調査を行政上の目的で行っていると思う。場合によっては無作為抽出のようなかなり手間暇のかかるようなことしていると思うので可能であれば、そういった調査の一つとしてこれを連動させ、市として一体に利用していくというほうがより適切なのではないかと思う。</p>

委員	4 ページ ( 5 ) 地球環境の保全の中で外灯の LED 切り替え率が載っているが、LED に切り替える場合の申請等は各町内から出すのか、それとも市が計画的に行っているのか。
事務局	都市整備部で自治会からの要望なども加味して計画的に行っている。
委員	3 ページ ( 4 ) 循環型社会の構築のバイオマス産業でのたい肥製造量だが、これは製造しようと思えばもっと量を増やせるものなのか。もっと利用方法があるべきだと思う。大いに活用するべきと考える。
委員	氷見市ではバイオマスでの発電化が行われている。九州では停電で電気が使えなくなった経験から、各家庭でバッテリーをもって発電しようという考え方も浸透している。小さい自治体では自分達で発電していこうという体制も必要だと思う。氷見市では魚のあら、木材を利用して発電するといったことを事業化していると聞いている。環境課として一つの目玉としてそういう事業をおこなってほしい。
事務局	市内では、民間事業者が間伐材を利用し、約 4 9 0 0 Kw 売電しているバイオマス発電所がある。今後も再生可能エネルギーがどんどん普及するよう働きかけていきたい。また、クリーンピア射水の基幹改良工事により、今までのごみ発電は、施設内ですべて消費されていたが、発電効率が上がり売電できるようになった。そちらでも再生可能エネルギーを活用している。
委員	環境チャレンジ 1 0 で市内の学校を回らせてもらっている。射水市の小学校は全 1 5 校で、環境チャレンジ 1 0 に取り組んでいるのは、市指定が 9 校、県の指定が 6 校となっており、市内すべての小学校が取り組んでいる。環境教育の実施状況については県内でも誇るべきことである。そこで感じたのは、小学生の環境に対する純粋な気持ちである。身近な生活の中で、エコバッグ運動、早寝早起き、こまめに電気を消すといった、地球温暖化を防ぐことを習慣化しているようであった。他にも、小学生に六渡寺海岸で、鳥、魚がプラスチックを食べて大変なことになると伝えると驚く。射水市内のチャレンジ 1 0 に参加している小学 4 年生は、環境に対する意識が高くて感心する。小学生の取り組みを聞くと教えられることもあるくらいである。川山海がある射水市では環境教育をする環境も整っている。環境教育もやりがいがある。海できれいな魚を食べようという活動もしている。今後も続けていきたい。
事務局	環境教育は重要である。ごみ問題なども結局は、道徳的なことが大切でもあ

委員	<p>る。環境教育をしていただいて大人になっても環境問題について意識を持ち続けていってほしい。</p> <p>1 ページ( 1 )健康で安全な生活環境の確保でのごみの不法投棄件数について、昨年は件数を数える定義の変更があったため H 2 8 から H 3 0 の件数が大きく増えたと説明を受けたが、定義の変更はどの段階で行われ、基準値、目標値や測定値とどのように連動し、その値をどう解釈していいのか。</p> <p>また、山間部や河川等の人目も付きにくい場所での大型ごみが不法投棄されているというが、大型ごみの内容は具体的にどんなものがあるのか。</p> <p>注意看板の設置や地域の関係機関との監視やパトロール強化していくとなっているが、公園に看板を設置している以外に、モニターの設置といった監視体制を選択肢とし検討したことはあるか。</p>
事務局	<p>H 3 0 には、これまでは大型の投棄物しかカウントしていなかったのを小さいものもカウントすることに変更した。R 1 については降雪が少なく、目隠しになるものがなかったことにより、投棄しづらいという投棄者の心理的部分の関係もあったと思う。また、例年、雪解けのタイミングの 3 月に監視員に調査をお願いしていたのが、今年は新型コロナウイルスの影響で活動自粛によりできなくなったことも関係して、H 3 0 より数値が低かった。監視員が調査できなかった間に不法投棄されたものが残っているのではないかとと思われるが、監視員から特に残っていると報告も受けてはいない。これまでの活動の効果があったと思う。引き続き監視活動を続けていきたい。</p> <p>監視カメラは環境課で移動式の監視カメラを 2 台持っており、不法投棄が多いところには貸し出して 1 ~ 2 か月ほど監視している。設置したところは抑止効果も出ているため、自治会等から申請があれば貸し出していく。</p>
委員	<p>ごみの不法投棄件数の目標値である 3 3 は、定義が変更される前の目標値であるため、定義変更後の H 3 0 は目標値よりかなり多く思えるが、それは定義の変更によるものであり、R 1 も H 3 0 と同様になるはずが、降雪量やコロナの影響でそこまで増えていないという解釈になる。そのため、この目標値の解釈は注意を要するものという理解でよいか。</p>
事務局	<p>この数値は厳しいものとなっているが、この数値は変更せず残し、この数値を目標に頑張っていきたいと思う。</p>
委員	<p>2 0 3 0 年までに持続可能な開発をすると盛んに社会で叫ばれている 2 0 3 0 年までの SDGs 構築といった環境にまつわる取り組みについて知りたい。</p>

事務局	最近、ゼロカーボンシティ宣言をする市も増えてきている。当然、射水市も意識している。ただ、宣言をしているが何をしているかということまでは各市、宣言に含まれていない。射水市としては、ある程度、何をするかが目途が立ったら宣言したいと思う。射水市は、再生可能エネルギーを利用することでのゼロカーボンを目指している。まずは公共施設でゼロカーボンを目指していきたいと考えている。現在もそういう計画を進めている。具体化したら皆さんにお話ししたい。
委員	SDG s 構築といった取り組みはしているか。
事務局	様々な政策の予算、計画はそれが SDG s のどの項目に当てはまるかということ意識して行っている。そういう点では SDG s に取り組んでいると思う。ただ、核となる事業をして、SDG s 未来都市に応募するといった段階までには至っていない。核となる事業ができれば応募して採択してもらいたいと思う。
委員	委員の皆さんや市役所の方に市内の SDG s を意識した活動はどんなものがあるのか、またその状況について教えてほしい。
事務局	SDG s とは、環境面、経済面、社会面と色々な面がある。一言でこれというものはないが、各事業をするときは、SDG s のどの項目に該当するかを整理し、事業をそれぞれ位置付けている。そういう意味ではすべての事業で SDG s を意識した事業に取り組んでいると思っていただきたい。
その他	
事務局	本市では、プラスチック資源循環を進めていくため、現在、プラスチックごみの現状を把握するための調査をしている。今後、検討会を設置し、施策を進めていくための議論をしていきたいと考えている。その議論の結果については、来年の審議会でもある程度の方向性が見えればご報告し、皆さんのご協力もいただきたいと考えている。
委員	<p>SDGs への取組みについて、計画が具体化してきた段階で市民に示していくと先ほど説明があったが、市民としては、自分達の直接関与していないところで決まった様々な計画は、やらされ感から前向きな取組みになりにくい方も多いのではないだろうか。</p> <p>射水市の環境について、市民のみなさんが自分たち自身の問題として自らも考えようという機運が熟していない状況では、行政がいくら計画や数値目標を立てて取組みを進めても、市民の理解と協力は限定的であり目標</p>

	<p>達成は難しいかもしれない。もし、可能であれば、計画策定の過程で市民のみなさんにも参加してもらい、射水市の現状と課題を正確に知ってもらった上で解決策と一緒に考えることができる機会を増やしてはいかがだろうか。大人に限らず、市の未来を担う子どもたちにも柔軟な発想で考えてもらい、結果は市長に提言してもらえば、施策への参加意識も持ってもらえるのではないと思う。必ずしもよいアイデアが出てくるとは限らないし、短期間での課題解決には向かないかもしれないが、考える機会を通じて、なるべく多くの市民のみなさんに意識を高めてもらう取り組みは必要だろうと考える。様々な事情から行政主導になってしまう施策は多いと思われるが、現在取り組まれている短期的な数値目標の実現への努力と並行して、市民のみなさんが行政と一緒に射水市の環境について考える機会を増やす努力も行っていたきたい。</p>
事務局	<p>言われるとおりそれが理想である。私たちが十分に説明し、市民に理解してもらい、市民に提言をいただいて、それを行政が政策に生かしていくというのが理想的な形だと思っている。</p>
委員	<p>当然、理想だけを追い求めるわけにはいかないが、数値目標ありきだと取り組みが形式的になってしまうおそれがあるため、両者のバランスをとって施策を進めていただきたい。</p>
委員	<p>射水市総合計画では、SDGsの環境の項目が17項目ほどあって6項目ほどはおそらく実施していると思う。ほかにも3世代交流やエコストアなど幅広くおこなっている。SDGsに向かってやっていこうというのが県の方針でもあり、射水市もそれに向かっていくということである。先ほども紹介した小学生の環境への関心について、毎年、地球温暖化防止活動に関するポスター及び壁新聞を募集している。今年は新型コロナウイルスのこともあり集まらないかと思ったが、射水市からは県に152件もの応募があり、県内でもトップであった。射水市の小学生は環境への関心が高いことがわかる。また、入選数も多い。今後とも関心をもって、親子三代にわたって環境の問題を掘り下げて行っていただきたい。</p>